

派遣先所属 福島県企画調整部文化スポーツ局生涯学習課
 氏 名 市堀 智章 (いちぼり ともあき)
 派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県生涯学習課では、震災の記憶と記録を未来に継承し世界に発信する情報発信拠点(アーカイブ拠点)施設の整備に関する業務に携わっています。震災から7年8ヶ月以上過ぎ、震災の記憶の風化と震災関連資料の散逸が懸念されています。それを防ぐため、震災関連資料を収集するとともに、震災とそれに伴う原子力災害での経験と教訓を広く発信するため展示や研修、研究の機能をもったアーカイブ拠点施設を2020年双葉町に開所する予定となっています。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点概要

事業概要
 東日本大震災及び原子力災害の経験と教訓を国や世代を超えて継承していく施設として整備
 建設予定地 双葉町中野地内
 施設規模(延床面積) 約5,200㎡
 敷地面積 約35,000㎡

アーカイブ拠点施設の果たす役割
 ～「みらい」へのゲートウェイ～
 ここで創りだす5つの出会い
 1. 「経験」「教訓」との出会い
 2. 福島を経験を生かした資料や研究との出会い
 3. 様々な活動、人との出会い
 4. 「いま」と「これから」との出会い
 5. 回遊の出発点としての「現地・現場」との出会い

事業・活動の方針
 ふくしまの経験とそこから得た教訓を後世に残すための4つの事業と3つの活動
 1 収集・保存
 2 調査・研究
 3 展示・プレゼンテーション
 4 研修
 ともに経験し、立ち向かった「オール福島」の参画で推進
 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、国内外にむけて福島への“出会い”を用意

■展示イメージ

事前前後の「事実」、福島の「経験」を「教訓」として発信し、未来への「原子力防災」や「まちづくり」に活かす

1 プロローグ 全体ガイダンス
 ●何度も移動した道程
 ●一夜した日陰
 ●県民の想い

2 災害のはじまり 原子力発電所事故 安全神話の崩壊
 ●災害の始まり
 ●原子力発電所事故

3 原子力災害の影響と対応(初期) 放射線からの避難 事故への国内外からの注目
 ●避難の困難や苦痛、人々の犠牲
 ●国内外からの注目、支援

4 県民の想い 県下全域の「記憶」と「記録」
 ●県民の想いアーカイブ

5 原子力災害の影響と対応(長期化) 教訓を生かす原子力防災
 ●原子力災害「体験」学習
 ●原子力災害への対応の記録資料

6 復興への挑戦 ピンチをチャンスに復興の姿
 ●チャレンジふくしま
 ●みらいの街

これからの福島を創る最前線(現地)へ

今までの業務では、アーカイブ拠点施設の展示及び建屋の設計に関する業務、アーカイブ拠点施設の設立に向けて機運を醸成するためのフォーラムの実施に関する業務、アーカイブ拠点施設の調査研究・研修事業の検討に関する業務などに携わりました。

フォーラムでは、アーカイブ拠点施設の設立趣旨の一つである「情報発信」の大切さをテーマに、福島県内の語り部団体の方による震災語り、有識者によるパネルディスカッション、福島県知事とタレントのサンドウィッチマンのお二人による対談を通して「情報発信する事の大切

さ」について議論を深めました。



29年12月10日に実施したフォーラムには約200名が訪れました。福島県知事とサンドウィッチマンの対談の様子

生涯学習課は私以外全員福島県のプロパー職員で、課長、主幹そして課員が9名の計11名での構成となっています。また、課員の内4名は主事であり全体的に若い人の多い課であると思います。

私が勤める文化スポーツ局には、生涯学習課の他にスポーツ課、オリンピック・パラリンピック推進室、文化振興課があり、どちらも若い方が多く活気あふれる職場であると感じます。

2. 被災地の復旧・復興の状況

震災から7年8ヶ月が過ぎ、震災を経験していない世代が増えてくるとともに、震災の記憶の風化も進んでいるのではないかと思います。県内には未だ帰還困難区域に指定され帰還できない住民や、福島第一原子力発電所の廃炉など復興が終わっていない部分も多くあります。世界に類を見ない複合災害の記憶や記録、教訓を後世に伝え、後の世代に引き継いでいくことの重要性を実感しています。

一方、福島県の面積は全国で3番目に広く、埼玉・千葉・東京・神奈川を併せた程度の面積に匹敵します。震災で被害を受けた海沿いの地域と、会津や福島市などの中通りは同じ福島県ではありますが、埼玉に住んでいる自分の感覚からすると他県に行くほどの距離があります。

私の住んでいる福島市では、埼玉で暮らすのと変わりなく生活が営まれ、駅前のお店では多種多様なお店で美味しいお酒やご飯を味わえ、多くの観光客や地元の方で賑わいを見せています。

「ふくしまの光と影」をしっかりと発信し、福島を正しく知ってもらうことが必要であると感じています。

3. 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県に派遣になって一番良かったのは、綺麗で広くて安いゴルフ場が沢山あることです。埼玉だったら数万円するであろうクオリティーのゴルフ場が、1万円近傍で楽しめます。また、日本酒は美味しく、食べ物は美味しく（特に焼き鳥！）、暮らすにはとてもいい場所だと感じています。

秋冬には県庁裏の河原で職員の芋煮会を行いました。埼玉にはない風習ですが、山形風や福島風などあるようです。寒い中で食べる芋煮はとても美味しかったです！！

仙台まではバスで1時間程度、東京へは新幹線で1時間程度と都市部へのアクセスも良いです。道路は広く、ついついドライブしたくなる道が多いように感じています。

住めば住むほど、良さと奥深さが分かり、いろいろな方に訪れて欲しいなと思います。



所属する文化スポーツ局職員でのゴルフ（筆者二列目 左から二番目）